

チェックリスト

- ①視能訓練士などの眼科検査スタッフが十分な検査を行い、その後、眼科専門医による診察をうけ、検査内容と結果について医師からきちんと説明をうけましたか？
- ②高度近視の人や、角膜の厚さが薄い人の場合、レーシック以外の術式も選択肢として検討しましたか？
- ③術前検査とカウンセリングに十分な時間をもちましたか？ レーシックの治療について、十分理解できましたか？
- ④年齢やライフスタイル、手術の目的などを考慮した目標視力の設定を、医師と十分に話し合う時間をもちましたか？
- ⑤手術の合併症やデメリットに対する説明を受けましたか？
- ⑥はじめての適応検査の後、手術までに一定の日数を空けていますか？
- ⑦手術後、短期のみならず長期にわたる定期検査を行う予定がありますか？
- ⑧執刀医を把握できる診察でしたか？ 担当医師、執刀医は「眼科専門医」でしたか？
- ⑨あなたが不安に思うことを、きちんと質問できましたか？ 医師はそれにきちんと説明してくれましたか？
- ⑩術後に問題があった場合には、最後まできちんと治療をすることが期待できる施設ですか？  
(参考・安心LASIKネットワークのホームページ)

検査、カウンセリングが重要

レーシックは角膜の表面に、ふた状の切れ目を作り、それをめくってレーザーを照射する技術。角膜を削って目の屈折率を変え、ふたを元に戻して終了する(図)。ただ一般的に18歳未満で終了する(図)。同ネットワーク会員の江口眼科病院(函館)の江口秀一郎院長によると、手術時間は一つの目の前検査が重要だ。

レーシックは角膜の表面に、ふた状の切れ目を作り、それをめくってレーザーを照射する技術。角膜を削って目の屈折率を変え、ふたを元に戻して終了する(図)。ただ一般的に18歳未満で終了する(図)。同ネットワーク会員の江口眼科病院(函館)の江口秀一郎院長によると、手術時間は一つの目の前検査が重要だ。

(小塚由記夫)

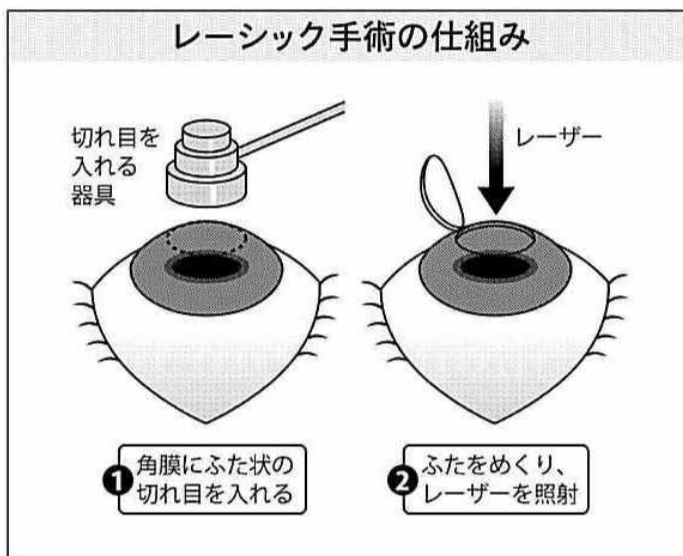
近視を矯正するため、レーザーで角膜を削るレーシック(角膜屈折矯正)手術。国内で年間40万件以上が行われ認知度が高まっているが、2月には東京の眼科で衛生管理の不十分さから、角膜炎などの集団感染が起きるなど安全性に不安を持つ人もいる。こうした中、全国の眼科専門医や大学病院が「安心LASIKネットワーク」をつくり情報発信を始めた。レーシック治療の現状と、安心して手術を受けるためのポイントをまとめた。

近視矯正のレーシック手術

安心は施設選びから

米国では年間約150万件の手術が行われているという。日本でも2000年に治療器具のエキシマレーザーが認可されたが、健康保険が適用されないため、施設による一つの目で15万円程度の費用がかかる。

一方で、急速な普及に伴い、価格競争や医師の技術など治療の質への懸念も生じている。感染症のほか、手術後に別の眼科や大学病院の角膜外来を受診するケースも見られるからだ。このため、慶応大医学部眼科学教室



専門医らがネットワーク、情報発信

江口院長は「メリットと合併症などのデメリットを分かりやすく説明し、手術後もフォローアップする施設かどうかが大変。手術をしたら元に戻すことができないので、医師と相談して納得した上で受けてほしい」と話している。

の坪田一男教授が世話人代表となり、全国の11クリニックと旭川医大など4大学病院が同ネットワークを発足。3月末からホームページ(<http://www.safety-lasik.net/>)で施設や情報の発信を始めた。

同ネットワークによると、手術前の検査やカウンセリング、手術後の定期検査や合併症の治療などのフォローをきちんと行う施設を患者自ら選ぶことが必要だとしている。